

## アイリックコーポレーション ウェビナー開催

# 損保エコシステム構想テーマに

アイリックコーポレーションは6月3日、「損害保険エコシステム構想概要」損害サービス業務のDXへ」をテーマにウェビナーを開催した。損保エコシステム構想は、保険金支払いまでのリードタイム短縮や関連業務の効率化を目的としてシステムを共通化するもので、同社はインターネット保険代理店のNTTイフとパッケージ・ソフトウェアの販売・技術サポートを行う㈱アシストと共同で取り組みを進めている。ウェビナーでは、同構想に取り組み背景や概要、今後の展開などについて説明した。当日は、生・損保会社など約30社が参加した。

ウェビナーでは、NTT 保険会社と意見交換など  
Tイフ営業部セネラルマ ソリューションの提供に  
ネージャーの吉村忠義氏 加え、保険代理店とし  
が損保エコシステム構想 の非競争領域を共通化す  
について、すでに取り組 ることで、関連企業や保  
みが進んでいる生保エコ システムと同様に、損保  
業務の非競争分野のシス に加え、各保険会社が指

## 非競争分野のシステム共通化目指す

取り組んできた。その中 險会社、顧客に役に立つ  
で、DX(デジタルトラ DX化が図れるという考  
アイリックコーポレー ンスフォーメーション) えを見出したことが、同  
ション、NTTイフ、ア 化の形態に対する議論推 プロジェクトに取り組む  
シストの3社は、損害保 進に向けて、いくつかの 背景にあるとした。

術を充実させるなどで、 領域も拡大するとの考え  
を示した。  
すでに複数の生保会社 が参画しサービスを進め  
ている生保エコシステム は、書類の郵送や目視確  
認、査定のバラつきなど を要因としたリードタイ  
ムの長期化といったペイ ンポイント、OCRと  
専門技術の適用によりデ ジタル化・効率化して、  
圧倒的な効率化や顧客体 験の改革を実現し、保険  
金・給付金支払いのデジ タル化と自動化を支援す  
るもの。

同システムは、スマー トフォンの画像などで簡 易かつスピーディーに査 定が行われ、非定型帳票 と医療行為もデータ化す  
る。また、ルールエンジ ンを活用することでスマ ーシな判定ロジックを構 築し、導入後は50%の時 間短縮につながってい る。そうした点から、損 害サービス全体の課題と なる保険金支払いのリー ドタイム、保険会社ごと に異なるアジャスターや 修理工場のワークフロ ー、災害時の対応といっ た非競争領域を共通化す ることで、保険会社、関 連企業、顧客に寄与でき るとの考えに至ったと している。

損保エコシステムの全 体像は、まず損害サービ スから開始してその後、 適用領域を広げていくと した上で、顧客の観点と して、保険金請求に関わ る負荷の軽減や書類の取 り付け・郵送、見積もり ・支払いのスピード向上 を挙げた。同システムの

思想は、業務標準化や効 率化を意識すること、共 通化による運用コスト削 減に加え、AIの共同利 用を通じた学習効果の向 上だとしている。今は3 社が取り組んでいるが、 今後は、損保会社を含め て輪を広げていくとい う。  
最後に吉村氏は、「O CRによるデジタル化と AIによるSTP(スト レート・スルー・プロセ ッシング)の判定や属人 化されない均一化した支 払い判断を実現すること によって、顧客に対し て、保険金支払いの迅速 化や保険会社関連企業に おける業務の効率化を図 れるエコシステムを目指 す」と語った。  
ウェビナー終了後に は、吉村氏、アイリック コーポレーションエー ジェントソリューション部 部長の畔柳主税氏、アシ スト東日本第二営業本部 営業統括部営業1部部長 の矢原朋和氏による質疑 応答が行われた。